

令和 6 年 7 月 19 日(金)

令和 6 年度 Ⅰ 学期終業式 訓話

校長 下村 昌弘

全校の皆さん、おはようございます。校長の下村です。Ⅰ 学期の締めくくりにあたり、話をします。

今日は 7 月 19 日。暦の上では夏真っ盛り。春夏秋冬、四季をさらに細かく分けた二十四節気では小暑、まもなく夏本番の大暑となります。また、72 候では今の時期を「鷹すなわち学習す」と言うそうです。

これは、5 月から 6 月にかけて羽化した鷹のヒナが、この季節に飛び方を覚え、狩りを学び、独り立ちに備えた巣立ちの準備を始めるころという意味があるようです。

先人たちは、この夏の空に、まもなく羽ばたいていこうとする鷹の初々しさに目を付けたわけです。いい着眼点です。

梅雨明けの空の青さ、雲の白さは、暑いのは暑いのですが、何かこう、生きるエネルギーを与えてくれる、そんな気持ちになります。

今日はⅠ 学期の終業式。一つの節目が来ました。竹は節があるから折れにくい。皆さんも今日を一つの節目として、「鷹が飛び立ち始める」のにならって、この夏、どう飛び立つのか、何にチャレンジするのか、そういうことに思いを巡らせてほしいと思います。

先日、壮行会で激励したので個別には繰り返しません、この夏に大会やコンクールを控えている人、チャレンジしてください。

3 者面談で自己課題が整理できた人、課題解決に向けてチャレンジしてください。

そこで、今日は「挑戦する」ということを反対ことば・反意語を使って考えてみます。

例えば、「好き」の反対は？

「嫌い」ですね。

「賛成」の反対は？

それこそ「反対」ですね。

では、「成功」の反対は？

「失敗」。

こういうのを反意語（反対の意味を持つ言葉）と言いますが、これをちょっと別の角度から深掘りしてみることで、新しいものの見方ができます。

例えば、今、例に出している「成功」と「失敗」。これは反対の意味なので、両端に位置します。

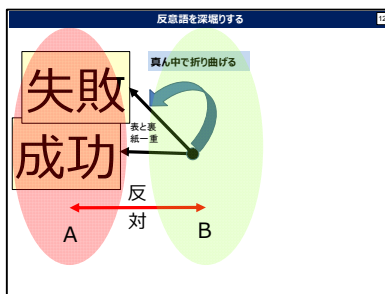
これをまん中から折り曲げてみる。

こんな感じです。イメージつきますか？



すると、左の端には「成功」と「失敗」が重なります。

そしてここからが深堀りなのですが、「成功」と「失敗」が重なった、Aの部分と折り返したBの部分とは、今度は反対、つまり対極に位置する関係になります。新たな対立が生じたわけです。



新たに生じたAとB。そのBの部分表現するなら、なんと言えいいでしょうか。

B、それは「成功でも、失敗でも、どちらでもない」状態です。

では「成功でも、失敗でもない」状態とはいったいどんな状態なのでしょう。そこを考えてみてください。

それを考えるためには、そもそも、「成功」とか「失敗」という状態はどのようにして生じるかを考えてみるわけです。Aの部分、それは、何か「やってみ」て「チャレンジしてみ」て、うまくいけば「成功」だし、うまくいかなければ「失敗」となるわけです。

ということは、、「成功」「失敗」の反対は「何もしない」「チャレンジしない」状態ということになります。

この折り返した状態からも分かるように、まさに、「成功」と「失敗」は表裏一体。まさに紙一重で、その反対は「何もしない」「チャレンジしない」ということであるわけです。

何が言いたい、もうお分かりですね。話をまとめます。

これからの 40 日間は何かに挑戦するには十分な時間です。

3 年生は「明確な目的」と「強い意志」で受験勉強にチャレンジし、1・2 年生は「謙虚な学び」と「勇気ある挑戦」で、勉強や部活動や探究のフィールドワークに取り組んでほしいと思います。

3 年生にとっては受験勉強の書き入れ時となるわけですが、暗記を中心とした学習ではなく、たとえそれが知識の習得であったとしても、その意味やそのわけを考える姿勢を失ってはなりません。

1・2 年生は、1・2 年の今のこの時期が「自分のやりたいことを比較的自由にやれる」恵まれた時間だということを意識してほしいと思います。今の学力より 2 つくらい上の大学をイメージしてみるといいでしょう。きっとワクワク感が増してくるはず。そういう気持ちで、受け身ではなく自分でやりたいことに主体的に取り組んでほしいのです。

全学年の皆さん、受験勉強にせよ、部活動にせよ、探究フィールドワークにせよ、その過程でうまくいかないことが起きるのは当たり前で、失敗と修正を何度も繰り返して、そこから新しい気づき・新しい発見が生まれるものです。

まずやってみて、後から修正すればいい。失敗を無意識に、あるいは過度におそれて、できない理由、やらない理由を理路整然と述べる人は決してならないでください。「失敗したらいやだ」とか「失敗の責任をとりたくない」という人は、何に対しても否定から入ってしまいます。そうなると何にも動きが取れません。どこにも行けないのです。これでは成長することができません。

失敗に対して寛容であってください。チャレンジには失敗はつきものです。失敗から何を学んだかが重要です。失敗の事実だけをとらえて落ち込む必要はありません。

新しいものを生み出す、社会の作り手となる、このためにも、たくさんの試行錯誤、チャレンジを経験する。自らやってみること、そして、失敗は普通のことだと受け止めて、次はどうやってやろうかと考える習慣をつくることが学びです。

今のような変化の激しい時代には、目指すべき絶対的なモデルはいません。だから、他人と比べて優劣をつけることには意味がありません。比べるとしたら、過去の自分と今の自分でしょう。たくさんのトライ&エラー、私はこれまでトライ&エラーという言葉をよく使ってきましたが、これからはトライ&ラーンと言いたいと思います。トライしてそこから学ぶ。このトライ&ラーンをとおしてタフな人間になってください。

8月30日は始業式。日焼けのせいだけではなく、何かに挑戦した後の、内面的にもたくましく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

今日は「鷹すなわち学習す」の日。“能ある鷹”である皆さんがこれからの40日間をチャレンジングにそして丁寧にすごしてくれることを祈って、1学期の結びとします。がんばってください。

ではここから話を変えて、夏のフリーウェアデイについてお話しします。

先日配布した通知文や TAKE OFF press でもお知らせしたとおり、前期補習で全学年がそろそろ4日間を「制服を基本としながらも私服での登校を可とする」期間にすることにしました。これも学校としてはチャレンジングな取組です。

社会でもカジュアルデーとかクールビズという習慣があって、TPOに応じた節度とセンスが問われる取組もあります。

これまで、このことについては、生徒会の皆さんや先生方、保護者の方々から意見を聞いてきました。

私服にすると「服を選ぶのがめんどくさい」「友達からどう見られるか不安」「防犯上、よくないのでは」などなど、いろいろな心配意見も出ました。

また一方では「楽な服装ができていい」「主体性とか人権、個性を考える、いいきっかけになる」

夏のフリーウェアデイ

この取組は、私服を強制するものではありません。また、制服を否定するものでもありません。

●趣旨目的	①自由と規律について考える ②自己選択・自己決定の責任について考える ③多様性・共生社会を明るく前向きに生きることについて考える	【最上位の目標 主体性の育成】
●内容	「制服を基本に、私服着用も可とする」 ・私服着用の場合は公共交通機関利用時をイメージで ・制服以外の規定は平常時に準じる	
●期間	前期補習期間（7月22日～8月1日）のうち全学年がそろひ期間 7月22日（月）、23日（火）、30日（火）、8月1日（木）	

場をわだかまえた涼しい格好で学校生活を頑張りたい！

「やってみて振り返ればいい」といった意見もありました。

わざわざやる必要もない、「寝た子を起こすな」という言葉もありますが、語らなかつたらなかつたことになってしまう、やってみなかつたら考えないままになってしまう、だからこそ、あえてやってみることにしたわけです。

この取組の趣旨・目的は、①自由と規律について考える、②自己選択・自己決定の責任について考える、③多様性・共生社会を明るく前向きに生きることについて考える、というふうに整理しました。

4 日間は十分な期間ではないかもしれませんが、皆さんがあれこれと思いを巡らすきっかけになればと期待しています。

これは、私服を強要するものでもないし、制服を否定するものでもありません。

これまで制服を着用することに何の疑問もなく過ごしてきたと思いますが、夏休みという、少ばかり非日常的なタイミングで、ちょっとリラックスして、規則とか自由とか、いろいろなことに思いをはせてほしいと思う。

制服にしろ、私服にしろ、自分の意志を持って判断してほしい、ということです。

留意事項は配布したプリントにあるとおりです。皆さん方を信頼しています。先生方には「皆さんの服装に対して、感想は言ってもいいですが、指導はしなくていいです」とお願いしています。

皆さんも友達の服装を否定するようなことは決してしないで、大人な対応、共感的な受け止めをしてください。

また実施後にはアンケートをとることにしているので、そこまでが一連の取組ということで、よろしくお願いします。

わずか4日間ではあるが、皆さんの様子を見て、冬はどうするか、来年の夏はどうするか、考えたいと思っています。場合によっては、もう2度と訪れない機会になるかもしれません。

いずれにしても、皆さんの思考の射程をひろげるきっかけにしてほしいと思っています。

一人一人が主体性をもって、他人の主体性を認め合える、温かで、共感的な雰囲気のある学校を一緒に作り上げていきましょう。